

東部日本語ボランティアネットワーク 第37回定例会記録

2025年12月13日（土）三島本町タワー14:00～16:00

出席者（5名）：石井、久木野、山口、古橋、相田

事前/事後資料提出者（4名）：佐野由美子、香川、西村、虎谷

○情報共有

西村（GGA 他） 事前メール

おすすめの本、ご紹介します。「移民が増えて、良いことってなんだろう？」

先日、この先生のセミナーにも参加しました。

読みやすい、データもしっかりしている、すてきな心温まるエピソードもある…

ということで、写真送ります。

ちなみに、佐藤先生は話し方は淡々としていらっしゃるのに、参加者アンケートに対して全員に返信をくださったという熱い想いを持っていていらっしゃる方…という印象です。

久木野（伊豆の国市）

日本語話そう会の近況

ほぼ毎週火曜日夜、韮山時代劇場の会場で、開催をつづけています。

ただ、最近は、日本語を知ろうとする外国人が少なく、外国人参加者が2、3名、時には0の時もあります。

また、日本語を教える日本人も、家庭の事情や高齢化で、参加者が少なく、今後の運営上の課題となっています。

古橋（県国際交流協会）

・新聞でも大きく取り上げられているが全体的に県の予算が非常に厳しく予算がどうなるのか全くわからない。日本語教育もどのような内容をどこまでできるのか不明。現段階では決まっている話はひとつもない。

・東部は日本語教室のない「空白地域」があるが、行政の関心は薄い様子。まずは実態調査に取り掛かってもらえるとよいのだが。来年度から文科省のスタートアップ事業が中止になることもあり東部、伊豆地域のカバーは課題として残る。

・東海、北陸地域の県、政令市国際交流協会では災害時における広域協定を結んでおり、9-10月に牧之原市の竜巻災害支援に入った。被害の大きかった地域は外国人が多く居住している地域だったため、ブラジル、フィリピンの定住者、ベトナム人実習生等が被災者に含まれていた。職員の活動として主に罹災証明書の手続き、住宅支援、見舞金や生活支援金にかかる相談の通訳をコーディネートした。また、手続きに関する資料の翻訳（ポ語、フィリピン語、ベトナム語）を行った。引き続き牧之原市と連携し必要な通訳支援は行っていくが、牧之原市の今後の展開の中に通訳、翻訳の予算が入っておらず、行政への働きかけの必要性を痛感している。

2025 年 8 月から 11 月活動報告

2025 年 12 月 10 日 香川

【日本語教室開催状況と結果】

開催日	学習者	支援ボランティア	その他	参加者	ブレイクタイム
8 月 3 日 2 部屋	7 名 ベトナム人 5 名 中国人 1 名 インドネシア人 1 名	9 名	4 名 子供 2 名 見学者 2 名	20 名	トゥアン家族の送別会
8 月 17 日 2 部屋	5 名 ベトナム人 5 名 初参加 2 名	8 名 室伏さん参加	10 名 見学者 2 名	14 名	自己紹介 9 月以降の行事などの案内
9 月 14 日 2 部屋	8 名 ベトナム人 7 名 中国人 1 名	8 名	3 名 長伏町自治会の見学	19 名	
9 月 28 日 2 部屋	5 名 ベトナム人 4 名 インドネシア人 1 名	8 名	0 名	13 名	中郷文化祭ビラ案揭示
10 月 5 日 2 部屋	7 名 ベトナム人 6 名 インドネシア人 1 名	7 名	6 名 大学生 2 名 引率者 2 名	19 名	大学生紹介 日本の「お月見」の紹介
10 月 26 日 2 部屋	8 名 ベトナム人 7 名 中国人 1 名	7 名	1 名 見学；フィリピン人	19 名	
11 月 16 日 2 部屋	4 名 ベトナム人 2 名 中国人 1 名 インドネシア人 1 名	7 名	4 名 大学生 4 名	15 名	「七五三」について紹介

【学習会のコメント】

＊菰山はなそう会の室伏さんから、「ゲームによる漢字/語彙学習」ツールの使い方を 3 名の支援者が実践指導を受けた。

＊11 月 16 日から日本大学国際関係学部の大学生 4 名（2 回生 3 名、3 回生 1 名）が学習支援ボランティア体験で参加した。私達ボランティアとペアとなり学習支援を積極的に取り組んでいた。教室の雰囲気や和やかになったように感じた。

参加にあたり活動上のルール等を「あいうえおの会ボランティア活動の約束」及び「ボランティア登録書」として大学側と調整し作成し、大学生は保険に加入した。

【その他の活動】

＊トゥアンさん家族（トウイさん、アンちゃんとチーちゃん）の送別会を開催した。家族の皆さんが帰国されて寂しさはあるが、彼らの将来の多幸を願う。

- *「長伏町文化祭」でベトナムの食を紹介してほしいと依頼あり、料理と菓子の写真と料理分布地図でビラを作成した。10月11日と12日に公民館の特設ブースで掲示され、多くの町民が立ち止まり眺めていた
- *11月8日「中郷プラザまつり」にあいうえおの会としてビラ掲示で参加し、会の活動を広報した。
- *三島市主催の日本語学習支援者向け講座が開催され、学習支援のスキル向上を目的にあいうえおの会からは7名が参加する。

山口（にほん語かいわ会）

活動報告

★毎週木曜日 19:00-21:00（大仁駅前まちすけ）

ボランティア 1〜6名含む 20名程

新規参加者

土屋建設で、ラオス人技能実習生4名とタイ人1名（日本人と結婚）、内1名建材、4名農業部

★7月 N4. 3. 1 受験者全員合格、内 N1 中国人、1年間、博多へ転勤

★12月 N5. 3. 2. 受験者あり。（インド人はデリーで受験）

2月結婚ベトナム人、普通自動車免許合格

★インド人中国人夫妻 11月中旬中国、12月インドへ1月中旬帰国予定、既に9月末に退職しているためビザ心配

イベント

★11月9日芋掘り会

雨天の中開催ポトラック形式で

★毎月第2水曜日 12:00-14:30 各国ランチ

認知症カフェのレッツまちすけとコラボ企画で。

11月コロンビア料理 ルース

12月メキシコ料理 ジェシカ

1月日本家庭料理 かいわ会ボランティア（活動資金に）

★希望者秋の遠足 朝霧高原まかいの牧場へ。

★11月12日伊豆の国防災ボランティア

防災カルタ作りに参加

やさしい日本語、英語版のサポートをする。

★1月15日、餅雑煮会

★第3回母国紹介 ベトナム（ティエン）

※2026年度静岡県社協補助金申請予定

佐野由美子（裾野市海外友好協会）（事前メール）

SOFA（裾野市海外友好協会）の日本語教室は変わりなく毎週日曜日の午前中開催しています。15名のスタッフが毎回3名（時に4名）で対応しています。今年度は年間47回の開催予定です。学習者は毎回7～8人から10名前後で固定気味です。国籍は多彩でタイ、スリランカ、フランス、ベトナム、インドネシア、ブラジル、モンゴル、スロバキア、スロベニア、ブルガリア等。5年以上続いている人が3人います。夫が日本人という人が2人。ビジネス関連、技能実習生などです。日本文化体験も年間数回行います。お花見、七夕、折り紙、茶摘み（数年に1回）、手工芸、書道等。来年1月には俳句作りと書初め体験を予定しています。

”移民“については、私自身が過去に4年余り外国での生活経験もあり、異国で暮らす感覚もわかる場所もあり30数年前から外国人支援の仕事やボランティアに関わってきた。今の日本は外国人（移民）なくしては成り立っていけない状況であることを多くの国民は理解しているし、私たちの教室でも最近「介護施設で働いています」というアジア系の人が増えている。「犯罪が増えて問題！」という声もあるが、そのリスクは受け入れるしかないし日本人の犯罪も同程度ではないだろうか。地域の日本語教室の役割はこれからますます大きくなっていく事と思う。

SOFA の状況も大きく変わってきている。英会話、韓国語の教室は今年度で閉講になり、語学関係は日本語教室だけになった。40年近く事務所として使っていた「大橋ビル」は所有者の死亡に伴い立ち退きを余儀なくされ、移設先を探しているところです。日本語教室は市の委託事業でもあるので市の協力を得て新たに、裾野駅近くの「東西公民館」で来年3月からの継続が決まりました。今までのような“教材置けます、コピー取れます、飲食OKです”の状態から一転するのでいろいろ大変です。新しい案内も作るので出来たらお知らせします。

石井（のびっこクラブみしま）

- ・土曜日の「のびっこクラブ」と学校訪問型「クラスぽよ」を開催。「クラスぽよ」の依頼が増えてきた。
- ・今年は「のびっこクラブみしま」15周年に当たるので、助成金を申請して、講演会2本と団体パンフレットリニューアルを手掛けた。

12/13開催の「のびっこクリスマス会」では、プロの歌手をお招きし、家族や関係者とともに楽しめる時間とした（約50人が参加）。

- ・個人としては、「災害ボランティアコーディネーター」講習を受けたり、地域の防災訓練に海外ルーツの住民と参加したりしている。

命の安全に関わる「防災」分野での、「やさしい日本語」使用や支援体制のネットワーク化の必要性を感じている。

虎谷（NICE、親子にほんごひろば、県教育委員会）（事前メール）

国理の2月勉強会は県の連絡協議会に来てくださった名古屋入管の方にお話ししていただく予定です。

・教室

学習者の数はやや減って 20 人行かないこともある。新人ボランティアの研修もあまりない。

全体の様子はあまり把握できていないですが、来ている方は本当に熱心です。

先日教えたペルーの男の子は、来年春には帰国して大学に行くのにも関わらず、熱心に学ぼうとしていて嬉しかったです。

みんな第 3 版対応はまだ考え中。あまり義務的にはしない見通し。

・その他活動

先日スピコンがありました。

ミングリング（イベント）を開催した。外国人の参加者は 10 名弱でしたが、楽しく交流できました。

①オノマトペを学ぶ会

オノマトペ導入

グループごとに、プリントで、具体例を学ぶ

みんなでクイズ

病院で使うオノマトペの紹介（順天堂の学生）

②俳句をつくる会

俳句の基本的な説明をして、

グループごとに、季語を出してもらい、皆さんに作っていただきました。

季語とかもあまり形式に拘らず、自由に楽しく作ってもらいました。

実はスタッフの方に、俳句の歳時記との関係から説明しようとするような方がいて、やや意見が別れたようなのですが、簡単な方にしました。

毎度こういう「どうせやるなら本格的に学派」の方もいるのですが、皆さんはその辺の判断とか、いかがですか？

○移民との共生について、考えていることなどの自由な共有

(山口)

・日本語能力不足が、行政(社会保障制度などを含む手続き)、医療、教育、生活(ゴミ出しルールなど細かい習慣の違い含む)での情報アクセスや社会参加の障壁となる。また、言語による交流不足が招く孤立問題

・食事(ハラルなど)、教育(宗教・文化背景)、生活習慣が異なることによる摩擦や理解不足、配慮不足からの問題

・「治安が悪化する」「仕事が奪われる」といった根拠のない偏見や差別意識が、入居拒否や就労差別につながる

・低賃金、賃金未払い、過酷な労働環境

1.

o ・国内労働者の賃金抑制や生産性低下への影響の懸念

これらを捉えて

・情報提供の多言語化、外国人支援者のネットワーク、日本語教育や多文化共生教育の推進、地域での交流機会や相互理解の促進は、私たちにも出来そうな事

・適切な労働環境整備と権利保護は耳にするが、聞く事位しか来ていない現状です。

※一人ひとりが主体的に地域を支えあうという考え方にに基づき、地域の一員として生活できることが重要と私は考えます。

(相田)

教室やイベントの活動で外国人と接していて、感じる事、考えさせられることは少なくなりがちですので、本で読んだ話について考えたことを共有します。

その本では、ある日本の精神科医が、ペルーの貧民街での生活を通して、貧困層や中産階級下層の人々と関わった話について書かれていました。

極端に思える貧困下の生活ですが、かえって人の本質的な性質や葛藤が、鮮明に見えてきました。

この考察は、移民や、移民に限らず、貧しさ・不公平を抱える人々の心理についてに考える上で、参考になりました。

これは、現代社会における、移民との共生を考える上での、重要なヒントにもなると感じましたので、皆さんに共有させていただきます。

○日本の生活にも無関係ではなさそう

な内容をピックアップしてみました。感じたことと合わせて紹介します。。

日本の様々な環境について、どういうふうに感じているのか理解するために、当事者の意識について考えてみました。

貧民街での特殊かもしれない前提として、スペイン語圏で使われる、「男尊女卑的な人」や「極端な男らしさにこだわる男性」という意味の「マチスタ」という言葉がある。

この言葉は、男性が優位であるという考え方や、女性を低く見たり支配したりする態度・行動を指す**マチスモ(Machismo)に由来しますが、これに対するあこがれの的なものが根底にある。ということです。

(A) 社会構造に関する当事者の意識

①貧民は詐欺などにも遭いやすいが、司法関係者は、「合法的盗人」だと言うのが常識。

→こういう国や地域も多いだろうと思った。移民として来日した人々が、母国で培った公的機関への不信感や警戒心を持つ可能性があり、日本の行政への対応にも影響しうる。

②教育投資をコストと見なす伝統指向群に対し、階層上昇志向の近代化指向群は教育至上主義的で、両者は互いを軽蔑し合う対立構造にあります。教育の経済効果を巡るこの根強い価値観の差は、社会環境が異なっても容易には変わらないでしょう。

→伝統指向群は、環境による影響で、学歴重視的な教育を本当に無駄だと思ってそう。国や文化によって「実力主義」や教育の経済効果に対する考え方が大きく異なり、日本人ほど教育至上主義を信じていない可能性がある。

関連して、著者の言葉で「途上国の近代的セクターであれば、コネの横行と学歴インフレが次に立ち現れる現実である。」

→学歴インフレは、アメリカ中国をはじめとして、発展途上国に限らず、世界的な大きな潮流になってますので、そういう意味でも、伝統指向群の考えに傾きそうな下地があると思いました。

③（サッカーの指導者の言葉）「子供たちは皆、怒りを持っています。この怒りは放っておくと、共同体を破壊するばかりか、子供達自身を破壊する。私たちのやっているのは、この怒りをサッカーで発散させること。彼らの怒りはサッカーの中で建設的なものになる。」

（著者の質問で）そもそも何故に子供達はそんなに怒りを持つのか？「それはドクトール、貧しさです」

→やはり根本にあるのは、なぜ自分達だけ貧しいのだ。おかしいという意識だと感じました。

④前提として、貧困層は母語としてケチュア語をを多く話し、多く話し、スペイン語は弱いということがある。

（要点）貧困層は、経済的・社会的不利を避けるため、ケチュア語を隠し、スペイン語を話そうとします。貧困とスペイン語能力の欠如が結びつき、社会統合が進まない、受け入れられない悪循環が生じているからです。→ケチュアのように、誇りを持ちづらい？言語を有するところが世界中にあるようですが、

日本の移民について考えてみると、日本において、母国語に誇りを持ちづらいという気持ちがあるかはわかりませんが、日本語を学習するコストをかけられずに、貧困の悪循環に落ちるとするのは、状況としてありそうだと思います。

(B) コミュニティなど身の回りの環境に関する意識

①女性たちが集う「母の会」は楽しい一方、「女の敵は女」という厳しさがある。不用意な発言はすぐに街中の噂となり、「恥」をかいたと感じると極度に攻撃的になり、激しい喧嘩に発展し警察の仲裁が必要になるほどです。

→恥に対する意識は環境によって特に強まりそうだと感じました。

をかかされる事の重大さは、世界が小さいほど大きくなっていくと思った。「恥」は誰でも小さな問題ではないが、ある意味逃げ道として、他の個人やコミュニティなど人間関係がある。また人間関係以外に自然との関係があるなど、他の世界を持つほと、「恥」は小さく考えることができる。また特に日本は自然という別の居場所があると思いますが、国や地域によっては、自然に居場所はもてないかなとも感じた。

②彼らはオンブレ（男らしさ）に誇りを持ち、妻が働くことはそれを傷つける。それだけで妻を殴ること

→この本を通して何回も語られているが、そういう価値もあるのだということ。

(C) 子供を取り巻く環境

①一般に教師と生徒との関係は教課に限定されている。親もその立場であり、落第もそのまま受け入れる。日本の学校にあるような擬似家族的性格は全くなく、子供達の方でも、教師に教科とは無縁のものを求めず、自分の出来る範囲内で教課学習に努めるのが役割と心得ている。

→国による違いを調べてみたい➡日本中韓台は例外的。世界的にはペルー同様が圧倒的に多い。

→おそらく世界的にも珍しい環境の国に来たと思っているかも。それをどのように当事者が感じているのか、聞いてみたいと思った。有り難いのか迷惑なのかなど。

②近代化指向群の子ども達も様々な情緒障害に苛まれる。しかしそれらは大抵「学習困難」と言った形で問題化するのである。そこで初めて教育カウンセラーに相談され、心理的な問題が指摘されて、精神科医のところへ回されてくる。

→「学習困難」がサインとして重要だと思った。

③（住人の経験談）ウサはありました。グループなどでなどで様々な犯罪をしました。いいことではありませんが、若者は勇気を奮い起こして何かをしなくてはなりません。そうです。何でもいいのです、自分の勇気を少しずつ培って行かなければなりません。そういう努力をして、臆病な者も強くなっていくのです。

→「勇気を奮い起こして何かをする」というのは、良い対象がなくても根本的な欲求だと思った。日本はまだその良い対象に恵まれていると思った。

④少年たちに理想の職業を尋ねると、軍人、警察官が多い。理由は、国や治安を守るというより「人を合法的に殺せる」と言ったものが圧倒的。

→こういう攻撃性に関する意識は、厳しい環境ほど、要するにやるかやられるかなので、そういう環境で生きていると自然なことかもしれないと思った。あと、暴力性の発散対象としてスポーツがあるというのは世界中の基本だが、それに飽きたらず警官などになりたい人は一定数いるだろうと思った。また、少し逸れるが、日本では外国人が警官になったりできないことに対していろんな議論があるようだが、この視点も参考になった。

以上